

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者/まんが/俳句/詩
- 4面 健康体操/ホットライン
- 5面 性暴力事件から考える
- 6面 啓子弁護士/ホットライン
- 7面 手作り・認知症マフ/母の歴史
- 8面 新婦人の活動/主張
- 9面 老いた母と向き合う



横浜市 渡部陽子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

戦争、被爆体験 私たちが引き継ぐ

戦後・被爆80年



あなたも一緒に

新婦人広島・呉支部 戦争体験を聞く会

戦後・被爆80年、戦争や被爆の実相の継承をと、広島・呉支部が開催した「戦争体験を聞く会」のとりくみを紹介します。



〈意見交流〉放送部の活動を通して
呉三津田高校放送部 上田 千尋さん

放送部の活動で原爆に関する話を聞く機会が多くなり、その中で、こうした機会はとても貴重なことです。みんな同じように生きていたのに、原爆は、たった一発で一瞬にして人びとの人生を狂わせました。一方で、原爆を落としたアメリカと、原爆を落とされた日本では、原爆に対する認識がまったく違います。

私たちが世界に原爆の真実を伝えることができれば、少しでも平和な世界の実現に近づくかも知れません。原爆や平和に関する番組を通していろんな人に大切なことを伝えていきます。

(放送部の作品は全国でも評価されています)



父の被爆体験を語り継ぐ

広島市家族伝承者・元NHKアナウンサー 杉浦 圭子さん

私はNHKを退職して、広島市の家族伝承者として活動を始めました。43年間のアナウンサー時代、広島出身の被爆二世ということもあり、被爆者の方がたから直接お話を聞き、貴重な教えをいただけてきました。

私がお話するのは、過去にあったことを忘れないでくださいという意味ではありません。いつどこで核兵器が使用されてもおかしくない状況のなかで、今の世界について考えてほしいと思っているからです。

〈2面に続く〉



沖縄で戦死、父の足跡たどって

広島・呉支部ポテト班 森元 信子さん

召集された父は、戦後消息がわからず、祖父が手を尽くして同じ部隊の同年兵を探しあて、沖縄で戦死していたことが判明しました。米軍が上陸した頃の、艦砲射撃の破片が頭部を貫通して即死に近く、所属部隊での最初の戦死者だったそうです。このことを知り、沖縄戦について学びました。父の足跡を知りたいと1989年には沖縄戦跡基地巡りに参加し、いま私が踏んでいる道にも遺骨が埋まっていると思うと…、たまらず泣き崩れてしまいました。戦争中、打ち捨てられた沖縄で今また、大軍拡のなかで戦争の準備がすすめられています。平和な世の中をと願います。

“32年に凝縮したり父の世軍歴を前にす絶たれし生を”
“ゆるやかに脱日本化へとすすみませ父眠る島よ平和の民よ”

基地のある街で、平和を問い続ける
広島・呉支部

呉市は戦時中、多くの海軍施設、造船所、兵器工場、海軍学校などが集中し、アジア侵略の拠点とされた軍港都市で、空襲で多くの人が犠牲になりました。

戦後は海上自衛隊の基地がおかれ、さらに昨年、日本製鉄所の広大な跡地を防衛省が買収して新たな防衛拠点をつくる計画が浮上し、広範な市民と反対運動を起しているところだ。

「戦争体験を聞く会」は、戦争や被爆体験の風化が言われるなか、2016年から呉や広島での戦争や被爆体験者から直接話を聞くことと始め、今回は9回目。2019年からは、呉空襲や被爆体験のドラマ化にとりくんでいる地元呉三津田高校の放送部の生徒さんも参加しています。被爆者の証言から「原爆の絵」を描いてきた広島市立基町高校の卒業生からもお話を聞く会を持ちました。

今回は杉浦圭子さんと、森元信子さんのお話を学びあう企画です。初めて呉市教育委員会が後援し、参加者もこれまでで一番多い約90人で、仲間も増えました。

日本被団協のノーベル平和賞受賞理由に、若い世代への継承がありました。これからは「原爆展」と「戦争体験を聞く会」を軸に、平和を守る活動を多彩にとりくみたいと思います。

